

第 16 回 OECD/Japan セミナーについて

文部科学省では、OECD（経済協力開発機構）が実施する教育事業への協力の一環として、平成4年度より日本国内でOECD/Japanセミナーを開催している。このたび、第16回OECD/Japanセミナーを下記のとおり実施した。

1. テーマ “Key Competencies and Skills for the 21st Century”
「キーコンピテンシー／21世紀スキル」
2. 日時 平成26年2月9日（日）
3. 主催 文部科学省、OECD、宮城教育大学
4. 後援 宮城県教育委員会、仙台市教育委員会
5. 場所 仙台国際センター（宮城県仙台市青葉区青葉山）
6. 参加者数 210名
7. 概要 以下の通り。



2月9日（日）

1. 開会

今里 讓 文部科学省大臣官房国際課長



2. 第I部：基調講演

○ 基調講演 I 「21世紀の教育と学習」

アンドレアス・シュライヒャー OECD 事務総長教育政策特別顧問／教育・スキル局次長

OECDの豊富な統計・データを駆使し、21世紀スキルをテーマに、雇用において必要とされる能力とは何か、21世紀スキルの涵養にはどのような学習環境が必要かについて講演を行った。主な論点として、知識基盤社会では創造性やコミュニケーション能力が重要であること、そのために、教員は科目研究だけでなく、指導方法を常に研究していくことが必要であることや、ITの活用による学習環境づくりが重要であること等を述べた。



○ 基調講演Ⅱ 「希望の教育－東北の創造的復興教育の取組から－」
前川 喜平 文部科学省初等中等教育局長

復旧を超えた創造的な復興を目指す教育「創造的復興教育」の実践例として、女川向学館や福島県双葉郡教育復興ビジョン等の取組を紹介した。また、東北の創造的な教育復興に向けたこれらの取組は、今後の我が国の教育の在り方に大きな示唆を与えるものであり、また、文部科学省が推進してきた教育行政の方向性や OECD の取り組む 21 世紀スキルの育成とも合致することから、文部科学省として引き続き支援していくこと等について述べた。

3. 第Ⅱ部：講演

○ 講演Ⅰ 「ESD とキーコンピテンシー」
見上 一幸 宮城教育大学長



宮城教育大学における ESD（持続可能な開発のための教育）の取組についての紹介を交えながら、ESD 活動が、子どもの参加する態度や問題解決能力等を育成すること、それがキーコンピテンシーの養成に寄与するとの考えを示した。また、ESD による防災教育等が、震災に際しどのように生かされたかといった事例を示しつつ、ESD により持続可能な社会や復興を担う人材育成を行っていくことが重要との考えを示した。

○ 講演Ⅱ 「OECD 東北スクールの実践について」
三浦 浩喜 福島大学教授



OECD 東北スクールの目的や活動内容に続き、この実践により 21 世紀を生き抜くためのスキル、キーコンピテンシーの育成につながるとの考えを述べた。参加者へのアンケート結果を踏まえ、東北スクールへの参加が、主体性や異なる集団における行動等に対する生徒の自己評価の向上に寄与していることを示した。また、未来創造型の教育の育成を目的としたイノバティブ・ラーニング・ラボラトリーを紹介した。

○ 講演Ⅲ 「東北の経験から世界が学び得ること」
ガポー・ハラス エトヴェシュ・ロラード大学教授



OECD 東北スクールが及ぼす参加者等への影響の調査結果を踏まえ、分散型リーダーの特質や、自主性など生徒に与えた影響等を報告した。また、参加者が世代を超え、課題解決型の取り組みを行う過程で 21 世紀スキルを身につけるプラットフォームとしての機能に着眼し、急速に変化する社会に対応する教育制度の変革モデルであることを挙げ、日本だけでなく、世界が学ぶことができるものだとの考えを示した。

4. 第Ⅲ部：パネルディスカッション

モデレーター：田熊 美保 OECD 教育・スキル局シニア政策アナリスト

パネリスト：アンドレアス・シュライヒャー

OECD 事務総長教育政策特別顧問／教育・スキル局次長

見上 一幸 宮城教育大学長

三浦 浩喜 福島大学教授

ガポー・ハラス エトヴェシュ・ロラード大学教授

パネルディスカッションは、①21 世紀スキルの教え方、②21 世紀スキルの教員研修・教職課程、③21 世紀スキルと教育イノベーションのネットワーク、④その他について、事前に参加者から寄せられた質問・意見を元に進められた。

アンドレアス・シュライヒャー OECD 事務総長教育政策特別顧問／教育・スキル局次長

21 世紀スキルの教員研修・教職課程について、従来型の研修だけでなく、教員が教えながら学び合う空間・時間づくりが重要との考えを示した。また、教員は科目研究だけでなく、指導方法を常に研究していくことが必要であり、その研究成果をネットワークで共有することが重要と述べた。日本は最も優れた教育制度をもっている国の 1 つだが、生徒のモチベーションを向上させることが、21 世紀スキルの一層の育成につながるとの考えを示した。

見上 一幸 宮城教育大学長

世代間コミュニケーションの観点から、家庭教育も 21 世紀スキルの育成に重要であるとの考えを述べた。また、21 世紀スキルと教育におけるイノベーションのネットワークづくりに関連して、宮城教育大学等が進めている地域の教員により知見を集めて、オンライン上で共有する仕組みづくりである知の拠点事業について紹介した。

三浦 浩喜 福島大学教授

東北スクールやイタリアにおける芸術教育の事例を交え、芸術教育が、人と人とのつながりとして機能していくことや、子どもが自由に考える時間・空間を与えるツールとして大切になると述べた。また、芸術教育において育まれるスキルや創造性は、21 世紀スキルの育成に寄与するとの考えを示した。

ガポー・ハラス エトヴェシュ・ロラード大学教授

21 世紀スキルの教員研修・教職課程について、教員評価の観点から、ポートフォリオなど革新的な評価制度が必要との考えを示した。また、21 世紀スキルと教育イノベーションのネットワークの観点では、教員の研究は日々の授業と切り離さず、一環として行い、学校、教師間におけるネットワークにおいて共有していくことが指導方法の創造と共有につながると述べた。

質疑応答・会場からの意見：

21世紀スキルの教員研修に関連し、従来の研修だけでなく、教員や生徒がお互いに学び合う時間・空間等の仕組みづくりをどのように醸成していくか、また、タブレット端末等の新たなテクノロジーの教育現場における導入を進めるにはどのようにすべきかといった観点で意見や質問が寄せられた。



5. 閉会

見上 一幸 宮城教育大学長

仙台でも記録的な大雪の中、多数の方が参加し、活発な議論を頂いたことに対して感謝の意を示した。また、今回のセミナーをきっかけに、宮城教育大学と福島大学等が一層協力し、21世紀スキル、キーコンピテンシーの観点から、東北における教育を促進していくよう努めていきたいと述べ、閉会の挨拶とした。

